

経営比較分析表（令和6年度決算）

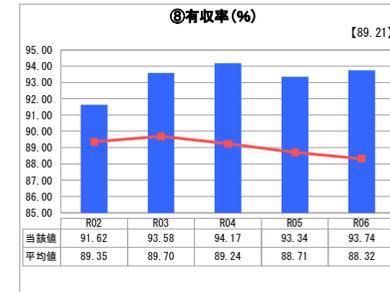
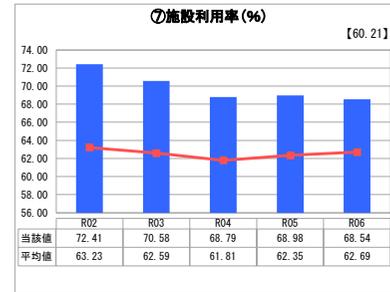
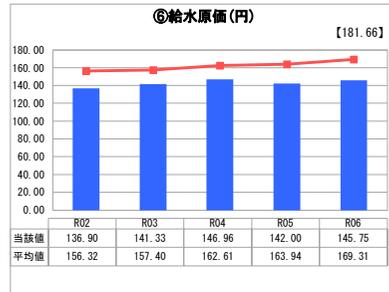
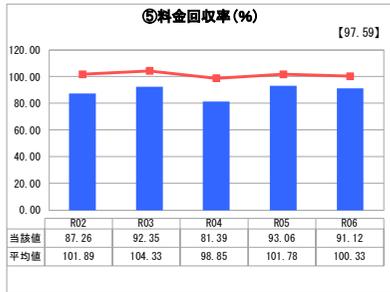
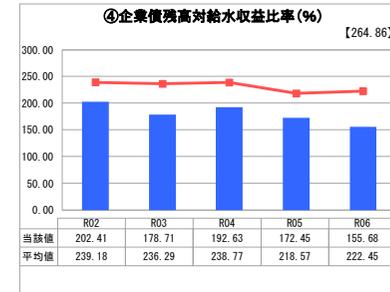
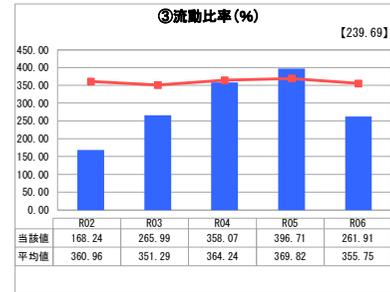
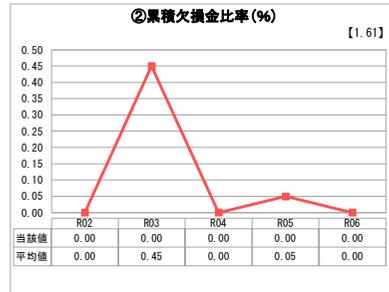
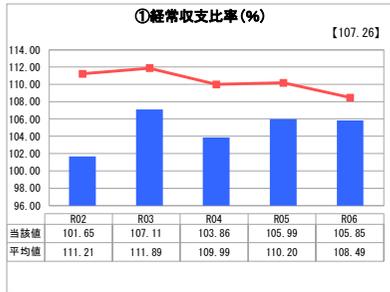
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家賃料(円)	
-	80.19	100.00	1,749	

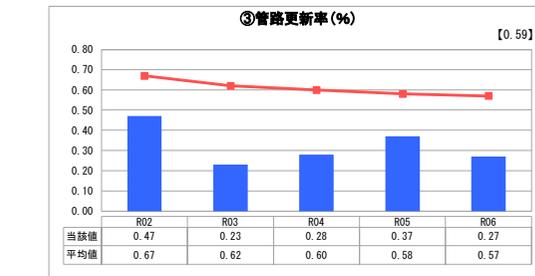
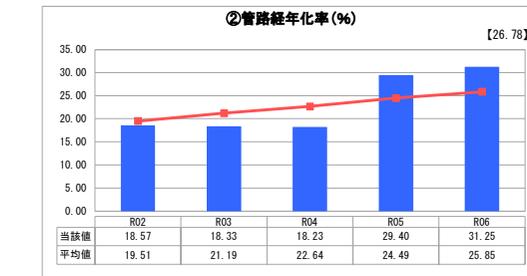
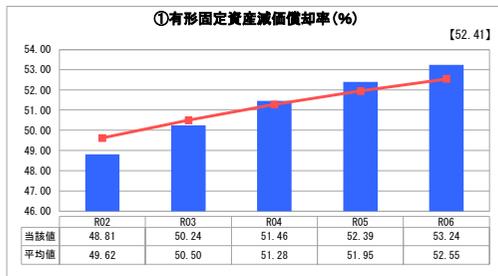
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
142,070	18.19	7,810.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
142,182	18.19	7,816.49

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
比率が100%を超えているため、単年度収支は黒字となっています。営業費用増加により前年度より僅かに下回りました。

② 累積欠損比率
欠損金は発生しておらず、良好な状態にあります。

③ 流動比率
短期的な支払い能力を示す値です。短期的債務に対する支払能力は改善傾向にありましたが、令和6年度は減少し全国平均は上回っていますが、類似平均を大きく下回っています。安全圏ではありますが、今後、浄水場の更新により多額の財源が必要となるため注視していきます。

④ 企業債残高対給水収益比率
平成19年度から平成28年度までの10年間にわたる企業債の借入抑制の結果、類似団体平均より低い値となっています。

⑤ 料金回収率
比率が100%を下回っており、給水にかかる費用が料金収入で賚れておりません。類似団体平均と比較しても低く、給水収益以外の分担金収入等に依存している状況が課題となっています。

⑥ 給水原価
本市は、市域が狭く、平坦な地形で、建物密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、他団体と比較して給水原価が低い傾向です。

⑦ 施設利用率
類似団体平均よりも高い値であり、施設規模は適切であると考えられます。

⑧ 有収率
類似団体平均よりも高い数値を維持しています。今年度の数値は前年度を上回り、老朽管更新を計画的に進めている結果と考えられます。今後も高い数値の維持を目指します。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
類似団体平均と全国平均よりも高い上昇傾向にあり、水道管や浄水場施設等の老朽化が進行しています。

② 管路経年率
管路経年率は、法定耐用年数を越えた管路（水道管）の割合を示す指標です。前年度よりも数値が高くなっており、法定耐用年数を越えた管路が増加している事が分かります。なお、緊急時には適宜、管路修繕を実施しているため、法定耐用年数を越えたことで直ちに設備が使用不可能になることはありません。

③ 管路更新率
管路更新率は、全ての管路延長に対し、当該年度に更新した管路延長の割合を示す指標です。全国平均、類似団体平均よりも下回っており、更新ペースを増加させるためには、更新事業量増とそれを支える財源の確保及び水道事業の経営に与える影響を踏まえた分析が必要です。今後も計画的な管路更新を進めていきます。

全体総括

本市水道事業の経営状況は、経常収支比率が100%を上回っており、健全経営を維持していますが、依然として料金回収率が低く、給水に係る費用を料金収入で賚っていない状況です。

健全経営を維持するため、施設の統廃合などを含めた投資の効率化や、DXの活用等効率的な業務手法の導入などにより、事業経営を計画的かつ効率的に実施していきます。

令和7年度に料金改定したことにより、収益の増加が見込まれますが、今後、給水収益が減少傾向となること予測される一方で、老朽化施設の更新や耐震化への投資など、多額の資金需要が想定されるため、長期展望に立った事業運営に取り組みます。